

八代妙見祭「ガメさん絵本」コンペ 最優秀賞「みよちゃんとガメさん」が絵本に



絵本になった作品を手にする石本愛さん（左）、いずみさん

石本 愛さん 石本 いずみさん姉妹 (日奈久大坪町)

八代妙見祭保存振興会が、今年度初めて、妙見祭の亀蛇を題材にした絵本の原画作品コンペを行った。審査の結果、石本愛さん、いずみさん姉妹の作品「みよちゃんとガメさん」が最優秀賞に選ばれた。作品は早速絵本になり、市内の保育園、幼稚園、小学校のほか、図書館、公民館、医療機関などに配布されることになった。

二人は、双子の姉妹だ。小さい時から一緒に本を読み、一緒に大好きな絵を描いてきた。「大人になったら、二人で何か作りたいね」。そう夢を語りあった二人の仲の良さは、大人になっても変わらなかった。現在二人は、仕事の傍ら「あつたかハートふれあい劇団」に所属し、活動している。入団のきっかけは、あまりにも仲が良く、いつも二人きりでいる姉妹を心配した母親が、ほかにも友人を作ってほしいと勧めたのだそうだ。

そんな仲良い姉妹も、今回の絵本作りでは、侃々諤々の議論をしながら書いたという。「読んで“ほっこり”とした気持ちになるような絵本にしたい」と、方向性では一致したものの、いざ書き始めると、何度も意見がぶつかり合った。そ

んな時、二人の脳裏に浮かんだのは、幼い日「二人で何か作りたいね」と語り合ったこと。「何か」とはこの絵本だったのだ。

作品は、愛さんが文章を担当し、絵はいずみさんが担当した。いずみさんは絵を学び、現在は“絵描き”でもある。しかし、この10年、コンテストなどに幾度となく応募するも評価が得られず、もう絵は諦めようと思っていた矢先の今回の受賞だった。「これで、あと10年頑張れる」と、姉妹そろって泣き笑った。

2月26日に、八代商工会議所で行われた表彰式と絵本の贈呈式には、代陽幼稚園の園児22人も招かれた。表彰式の後、原作者の愛さんによる読み聞かせが始まると、それまで、大人たちの難しい話に退屈していた子どもたちの表情が見る見る変わり、物語に引き込まれていった。そして、読み聞かせが終わると同時に、一斉に笑顔を咲かせ、盛んな拍手を送った。「おもしろかったね」どの笑顔もそう語っていた。お世辞など言わぬ素直な子どもたちのその笑顔は、この作品に情熱を注いだ二人への、最大の賛辞だった。

目次	Table of Contents
----	-------------------



2014.APRIL No.112

3	市立博物館 春季特別展覧会 京都相国寺と金閣・銀閣の名宝展
4	生ごみの有効利用
5	狂犬病予防集合注射のお知らせ
6	道路などへの広告物の設置は許可が必要
8	後期高齢者医療
10	介護保険料 仮徴収通知書送付
11	国民健康保険
12	市の組織を一部再編
13	納税には口座振替を・市税納期一覧
14	くらしの情報
16	市民カレンダー
18	くらしの情報
24	広告
28	まちのわだい <small>県立八代南高等学校閉校式 県立水川高等学校閉校記念式典 金融知識普及功績者表彰受賞 環境保全型農業推進コンクール最優秀賞受賞 100歳おめでとうございます 城下町「やつしろ」のお雛祭り ミス・ユニバース・ジャパン日本大会出場 ソーラー街路灯を植柳公民館へ寄贈</small> 他6件
31	伝言板
32	プロ野球ウエスタン・リーグ、八代ひこいちDON